

## 2025 年度(令和 7 年度) 三重県立高校後期選抜 分析と評価

eisu 教科分析チームの責任で作成された、各教科及び 5 教科全体に対する分析と評価です。入試問題の研究・学習の参考資料になるよう作成されました。叙述の客観性を保証するものではありませんので、ご理解ください。(2025 年 3 月 10 日作成)

国語	<b>難易度</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 例年並</li> <li>■ 大問の難易度 [1]やや難 [2]例年並 [3]例年並 [4]やや難 [5]やや難</li> </ul>
	<b>eisu 国語科チームによる分析と評価</b>
	<p>例年通り大問 5 問構成。やや易化していた昨年と比べると、例年並の難易度に戻った印象だ。文法は基本的な内容が出題されているため、日頃の学習を丁寧に行うことが必要である。説明的文章と文学的文章は設問意図を理解し、適切な箇所を本文から見つけて簡潔にまとめる力が問われる出題であった。古典は昨年同様、新大学入試を意識した形での出題で、古文と漢文(書き下し文)をしっかりと読み比べて内容を理解する必要があった。作文は資料の読み取りとともに出題される形で定着。条件が例年より多かったため、情報を的確に読み取り課題解決ができるように自分の考えをまとめる力が必要であった。</p>

数学	<b>難易度</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 例年並</li> <li>■ 大問の難易度 [1]例年並 [2]やや難 [3]やや難 [4]やや易 [5]例年並 [6]例年並[7]例年並</li> </ul>
	<b>eisu 数学科チームによる分析と評価</b>
	<p>令和 7 年度入試は、令和 5・6 年度と同じ形式での出題であった。大問 2(3)や大問 3(2)、大問 5(4)は、さまざまな条件を整理して検証したり、手順の多い計算をこなしたり、思考力を必要とする問題で、これらに時間をかけすぎることなく正確に解くことができれば、しっかりと得点できただろう。今後の対策としては、大問 6(2)のような eisu の入試直前完成講座直前演習で扱った問題と数値も含めほぼ同じ問題が出ているのをはじめ、入試頻出の定型化された問題が多数出題されたところをみると、過去の入試問題やその類題で何度も繰り返し練習・演習しておくことが重要である。</p>

社会	<b>難易度</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 例年並</li> <li>■ 大問の難易度 [1]例年並 [2]例年並 [3]やや難 [4]例年並 [5]やや易</li> </ul>
	<b>eisu 社会科チームによる分析と評価</b>
	<p>全体的には例年並。歴史はほぼ全時代から出題され、出来事の原因や流れを意識させる問題が多く、やや難しかった。公民は、単なる知識の暗記だけでなくその運用を必要とする問題も多かったが、全般としては少し易しかった。記述式問題は昨年度より 1 問増え 7 問となった。与えられた文章の中にはめ込む形で出題されているため、前後の文脈を読み取る必要があった。複数資料を用いる問題も多く、資料が苦手な生徒には少し難しく感じたかも知れない。定番の問題も多く見られ、数多く問題にあたっていれば、見たことのある問題も多かったはずだ。</p>

### 難易度

- 例年並
- 大問の難易度 [1]やや難 [2]やや易 [3]やや難 [4]やや易

### eisu 英語科チームによる分析と評価

## 英語

他府県と比べて、リスニングの配点が極めて高く、50 点中 18 点を占める。また、一部読みのスピードが速いものがあり、集中して聴き取ることができたかどうかポイントとなった。その他については、今年度は昨年度と比べて、大問 2 や大問 4 の難易度がやや下がり、大問 3 の英作文の難易度が上がったように思われる。昨年度と同様、対話文や長文における選択問題では、各選択肢の情報量が多く、短時間で正確に本文と照らし合わせながら、解答を導く判断力が問われた。

### 難易度

- 例年並
  - 大問の難易度
- [1]例年並 [2]例年並 [3]例年並 [4]例年並 [5]例年並 [6]やや難 [7]例年並 [8]例年並

### eisu 理科科チームによる分析と評価

## 理科

例年同様、大問 8 題の構成。生物・地学・物理・化学の 4 分野においても、また学年においても、かたよりになく均等に出題されている。全体的に各大問の文章量は、親世代の頃よりも非常に多いため、受験生によっては試験時間内に、最後まで解くことに苦労した生徒もいただろう。1 知識で 1 点をとる、という形式ではない問題が随所にあり、理科であっても表現力が必要とされていた。しかしいわゆる入試頻出問題が多く見られたので、中 1 から 3 年間、時間をしっかりかけて取り組んできた生徒には解きがいのある問題であったはずだ。

### eisu 教科部チームによる分析と評価

## 全体

今年の三重県立高校入試も例年通り、決して難しいわけではないが、取りこぼしが許されない問題のなかに、ときおり難問がまじるといふ、プレッシャーのかかる試験であった。しかし、eisu 教科分析チームの報告では、パターン化した「よくある」タイプの問題も多かったようだ。ということは、日頃から実戦的な訓練を積み重ね、スキのない学力を身につけるのが大切だということになる。

「神明(しんめい)は、ただ平素の鍛錬に力(つと)め、戦わずして既に勝てる者に勝利の栄冠を授くる」という言葉がある。常日頃から鍛錬している、勝って当然の者が勝つ、という当たり前のことを、いかに実践できているかが問われる試験であると言えよう。

注意：このデータを紙などに印刷したり、それを配布したりする行為はご遠慮ください。